

方 策	まちづくり協議会検討結果	評 価	自治会議検証・評価結果
<p>【旧方策1】 地域農産物を活かした特産化やブランド化の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特産品のブランド化 ・生産, 加工, 販売までの6次産業化 <p>【理由等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いちご農園は経営が成り立つか分からない ・温泉の周辺開発によっては, 出来るかもしれない(観光地が近くにあれば) ・ゆずの絞り汁, ドライゆずなどが考えられる ・講習会などを開催すればいい ・ゆずこしょうなど, 一部商品化済もある 	B	<p>対処:【取り組みの継続】</p> <p>【意見の総括】</p> <p>① 地域の現状把握⇒農産物の生産, 加工, 販売について地域の現状を把握するとともに企業や農家の意向等を確認する必要がある(農家, 企業等へのアンケート調査を実施し, 意欲のある企業・農家を発掘)。</p> <p>② 特産品の明確化⇒アンケート調査などにより, 地域の特産品(加工品を含む)を明確にする必要がある。</p> <p>③ 特産品の生産性, 品質の向上⇒ゆず, いちご, トマト, アスパラガス等, 良質なものを生産するため, 専門家や先進的な生産者から指導を受けて, 品質の向上, 均一化を図る必要がある(栽培方法の統一, 品評会の実施など)。</p> <p>④ 特産品の加工・販売⇒加工品の品質の向上, 均一化のため, 加工業者との連携が必要であるほか, 販売店の確保等, 販路を開拓する必要がある(商工会, 農協等の協力を得て, 連携できる加工業者の発掘や流通ルートの開拓)。</p>
<p>【旧方策3】 農業法人の設立と農業の6次産業化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・異なる農産物を作っている農家が集まった農業法人化の設立 <p>【理由等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業とのタイアップが必要 ・販売ルートの開発などJAうつのみやに委任 ・上小倉地区の生産者数名が, 米作を中心とした法人化を目的に営農集団を立ち上げた 	B	<p>⑤ 地域全体での取組み⇒地域特産品のブランド化, 6次産業化を図るため, 生産者も一体となった検討組織を設立し, 地域全体で取組んでいく必要がある。</p> <p>⑥ 行政の支援⇒早急に法人化についての説明会を開催し, 方策や資金面について, 生産者, 農協, 商工会等関係者が情報の共有化を図っていく必要がある。</p>
<p>【旧方策2】 観光農園や体験農園の充実・強化と観光まちづくりとの連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆずや観光農園の創出と拡大 ・野菜収穫体験農園の開発 ・観光振興との連携 <p>【理由等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光農園にしていくのは管理が大変なので難しい。しかし, ゆず園のゆずを収穫して収入源になるといい ・選定によっては観光農園になるのではないかと ・野菜は, 保育園児を対象に芋掘り体験などを行っている ・いちごは, 生産者が方針を変えないと運営できない 	B	<p>対処:【取り組みの継続】</p> <p>【意見の総括】</p> <p>① 地域の特性の活用⇒先進事例の調査等により, 具体的な手順や採算性の検証など, 課題を解決したうえで, 温泉熱を利用した園芸作物の開発等, 地域の特性を活かした取り組みを行う必要がある。</p> <p>② 観光農園の採算性の精査⇒観光農園化するよりも, 農協等へ出荷している現状のままの方が安定した収入を得られるとの声が根強いので, 先進地の事例を研究したり, 専門家に意見を求めるなどして, 観光農園化した場合の採算性を精査する必要がある。</p> <p>③ 既存の取組みの検証・拡大⇒一部地区でのゆずのオーナー制度の現状を把握し, 上河内地域全体に取組みを広げることができるかどうか検証し, 可能であれば取組みを拡大して, 地域全体の活性化につながるよう, 取組みの工夫や拡大を図っていく必要がある。</p> <p>④ 関係団体との連携⇒耕作放棄地の借り上げのため, 農地保全が主たる目的である(株)「JAアグリうつのみや」等関係する団体, 機関と連携して行うことが必要である。</p> <p>⑤ 地域を挙げての機運の醸成⇒観光客に立ち寄って欲しい場所に分かりやすい愛称を設定したり, 観光農園を管理, 運営する新組織を設立したりするなど, 新しい発想で, 地域全体で取組んでいく必要がある。</p>

方 策	まちづくり協議会検討結果	評 価	自治会議検証・評価結果
<p>【旧方策4】</p> <p>地域資源を活かした観光振興</p>	<p>・観光コースの設置や観光マップの作成 ・ホームページ等による観光情報の発進</p> <p>【理由等】</p> <p>・既存の類似品がある 歩こうマップ、旧跡マップなどを追加訂正すればできる</p> <p>・ホームページに取り組み中</p>	B	<p>対処：【取り組みの継続】</p> <p>【意見の総括】</p> <p>① 様々な団体との連携⇒多くの参加者や観覧者が集まるイベントを開催して地域の活性化を図るため、宇都宮ブリッツェンのような知名度の高いプロスポーツチーム等、様々な団体と連携する必要がある。</p> <p>② 観光地やその周辺の道路の整備⇒来訪者の増加や地域住民の交通安全の向上を図る他、自転車関係のイベントを開催しやすくして、多様な地域活性化の可能性を確保するため、羽黒山やその周辺の道路の整備をする必要がある。</p> <p>③ 地域の特産物の見直し⇒米、フルーツトマト、アスパラガス等も地域内での生産が盛んなため、ゆずやいちごととられず、特産物を選定する必要がある。</p> <p>④ 農産物関係のイベントの開催⇒様々な農産物の存在を地域の内外にPRするため、収穫祭などのイベントを開催する必要がある。</p> <p>⑤ 地域情報の広報体制強化⇒地域交流館の機能を拡充して、トイレや休憩場所の更なる充実や特産品の販売場所の増設や、観光案内所としての機能の付加等、「まちの駅」のように位置づけ、「歩こうマップ」等既存のパンフレット等をより有効に活用して、観光等、地域情報の広報体制を強化する必要がある。</p>
<p>【旧方策5】</p> <p>スマートIC周辺を中心とした産業の開発・誘致</p>			<p>対処：【取り組みの見直し⇒スマートICを活用した地域の活性化】</p> <p>【意見の総括】</p> <p>第2次宇都宮市都市計画マスタープランにより、スマートICによる広域交通の利便性を活かし、自然、景観、歴史文化、農産物等の多様な地域資源の有機的な連携を図るとともに、産業や観光等の機能導入による地域の活性化を図る。</p>
<p>【旧方策6】</p> <p>道路整備の推進</p>			<p>対処：【取り組みの継続】</p>
<p>【旧方策7】</p> <p>公共交通の充実</p>			<p>対処：【取り組みの見直し⇒地域内公共交通の利用促進】</p> <p>【意見の総括】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運行受託者と利用促進策について協議を行い、実施 ・愛のりユッピー号と済生会病院線との乗継割引の実施 ・かみかわち愛のりユッピー号ニュース等により未登録世帯への更なる周知 ・全戸アンケート調査の実施 ・高齢者外出支援事業の実施 (平成26年4月1日から、かみかわち愛のりユッピー号の回数券が選択可能)